

バイオ系のキャリアデザイン

就職支援 **OG OB** インタビュー編

Interview ①

大阪成蹊短期大学栄養学科 専任講師

弓岡 仁美



出身大学・卒業年度：岡山県立大学大学院保健福祉学研究所 2013年 博士後期課程 単位取得退学，
2014年 博士（栄養学）

博士論文タイトル：大豆アレルギーGly m Bd 28Kの前駆体に関する研究

「現在の仕事について」

◆担当職務

栄養学科の教員として栄養学，応用栄養学実習，生化学実験などを担当しています。

◆現在までのキャリアパスとその配属での仕事内容&そこでのやりがい

2003年4月～2007年3月 愛媛県職員（学校栄養士）（結婚に伴う転居のため，愛媛県職員を退職）

- ・仕事内容：小中学校において，児童・生徒の健康増進のための学校給食管理や食育など。
- ・やりがい：成長期の健全な食生活は，健康な心身を育むために欠かせないものであると同時に，将来の食習慣の形成に大きな影響を及ぼします。この時期の子どもたちの栄養教育に関わることができることにやりがいがあります。

その後，栄養士養成校で非常勤講師をしていた2009年，母校の恩師から博士後期課程に進学しないかと声をかけていただき，2年間で博士号を取得して戻るという約束のもと，主人とは結婚1年半で別居し，単身岡山へ（結局，博士への道のりは遠く5年かかることになる）。非常勤講師を続けながら岡山県立大学で院生生活を送っていたところ，2010年に参加した学会で大阪大学の藤山教授と出会い，在学中に研究技術を学ぶため大阪大学へ。大阪で出産後，育児をしながらの院生生活となる。2013年に単位取得退学，2014年に博士（栄養学）を取得。大阪大学生物工学国際交流センター技術補佐員を経て，2016年4月より現職。

2016年4月～現在 大阪成蹊短期大学栄養学科 専任講師

- ・仕事内容：授業，クラス担任，大学運営に関する会議や雑務，研究など。
- ・やりがい：食を通して，人が健やかによりよく生き

るためのサポートができる人材の育成を目指し，学生と共に自分も成長できるところにやりがいと魅力を感じます。

◆現在の就職を決めた理由

食べた物によって私たちの体は作られています。健康的な食生活は，人の幸せに大きく関わってきます。食を通して，人の健康に関わる仕事，中でも子どもに対する食育や栄養士の養成に関わりたと思っていました。

これまでの学校栄養士としての実務経験や研究を活かし，社会に必要とされる栄養士を養成したいと思ったからです。

◆将来設計（描けるキャリアパス）

教育では，社会のニーズにあった専門性を身につけ，自ら考え行動できる食のエキスパートを養成したいです。研究では，世の中のためになる健康増進に関する基礎研究を続けていきたいです。

◆挑戦したいと思っていること

食育活動の一環として，子どもたちに科学を身近に感じてもらえるような活動にも挑戦してみたいと思っています。

◆社会人として一番困難だったこと&どう乗り越えましたか

0歳の子育てをしながら博士課程の研究をしたこと。修士課程を修了してから今の職に就くまでに，13年間いろいろな回り道をしてきましたが，その過程で，多くのすばらしい方々に会い，助けていただき，そのおかげで今があります。毎日の家族の支えにも感謝しています。

◆博士力，どこで発揮していますか？

博士課程の研究を通して，物事をプラスとマイナスの両方の面から考える習慣，メンタル的な強さ，プレゼン力などが身に付いたのではないかと思います。

「人生について」

◆何のために働くのですか？

社会の一員として人の役に立つため、仕事を通して得られる喜びのためです。

◆ご自分にとって、お金を稼ぐ意味

自分の仕事が役立ち、その対価として頂けるものだと思います。

◆ワークライフバランスで工夫していること

子どもの生活時間にできるだけ合わせた生活を送ること。子どもと一緒に10時までには寝て、朝は4時頃から子どもが起きる前に、ひと仕事します。

◆現在の夢

栄養士になってよかったとイキイキと働く栄養士を育てていきたいです。

「後輩へ」

◆学生時代にやっておいたらよかったと思えること
本をたくさん読んで多くの知識を得ておくことと、英語の勉強をしておけばよかったと思います。

◆その他なんでも、後輩に伝えたいこと

人生は1度きり。無理だと思ってあきらめず、やりたいと思ったことは、今がチャンスと自分にできる範囲のことを、しっかりやること。それが結果的に、どこかにつながる道が拓けるきっかけになるのだと思います。

連絡先 E-mail: yumioka@osaka-seikei.ac.jp

Interview ②

法政大学生命科学部応用植物科学科 専任講師

廣岡 裕吏



出身大学・卒業年度：東京農業大学大学院農学研究科 2007年 博士課程後期修了
博士論文タイトル：Pathology and Taxonomy of Nectrioid Fungi in Japan

「現在の仕事について」

◆担当職務

植物に病気を起こす菌類に関する研究と研究指導を行っています。

◆現在までのキャリアパスとその配属での仕事内容
大学卒業後、農業生物資源研究所ジーンバンクで1年ほど、植物病原菌の保存に関する業務を行いました。2008年の春からは、アメリカ農務省とメリーランド大学で植物に病気を起こす菌類（植物病原菌）の分類・同定に関する研究を約3年半行いました。帰国後は、森林総合研究所で菌類を用いたスギ花粉飛散抑制技術の開発を行っていましたが、再び北米に渡り、カナダ農産・食品省とオタワ大学でメタゲノムを用いた菌類の多様性に関する研究を行いました。

◆そこでのやりがい

学生の皆さんと一緒に、研究成果の喜びを分かち合うこと、そして、その過程で学生の皆さんが、成長していく姿を見ると、やりがいを感じます。

◆現在の会社・組織（アカデミアを含む）の魅力

学生の皆さんの成長を感じながら、自分も成長していると感じる時、大学教員の魅力を感じます。

◆現在の就職を決めた理由

高校生の頃から食糧問題に興味がありました。大学入学後、植物の病気を防ぐことで収量の増加に大きく貢献できることを知り、この世界に飛び込みました。そして、研究に没頭する中で、人生一度きりと思い、研究が続けられる職業を選び続け、今に至りました。

◆将来設計（描けるキャリアパス）

引退するまで、私が関わった学生と一緒に、少しでも良い研究成果をあげたいと思っています。

◆挑戦したいと思っていること

いろいろな業界の方と、世界的にも評価され、社会に還元できる研究成果を出すことができればと思っています。

◆社会人として一番感動したこと

大学に来て3年目で、自分の研究室から博士後期課程を目指す学生が出たことです。教育者として、また時には研究者として、一緒に成長できればと思います。

◆社会人として一番困難だったこと & どう乗り越えましたか

大学の業務、研究室の運営、学生の指導など、研究との両立の難しさを感じました。とにかく、少しでも時間を有効に使うよう努力しています。

◆仕事のプロになるコツ

常に満足しない、妥協しないことだと思います。

◆博士力、どこで発揮していますか？

博士課程の時に、厳しさの中にも研究の楽しさ、面白さを学びました。そのため、難しい研究に出会っても、諦めずに成果をあげることができると信じています。

「人生について」

◆何のために働くのですか？

家族を養うため、学生を育てるため、研究で人の役に立つため、自分の興味のためなど、たくさんあります。

◆ご自分にとって、お金を稼ぐ意味

家族との時間や研究の時間を有意義に過ごすための「安心」を得るためです。

◆ワークライフバランスで工夫していること

時間の使い方です。家に仕事は持ち込みますが、メリハリをつけるよう努力しています。また、短時間で効率よく仕事や研究をするように工夫しています。

◆現在の夢

家族を養いながら、興味ある研究をより多く行うことができればと思います。

◆将来の展望

自分が関わった世界中の研究者と、できるだけ長い間研究を続けることができればと思います。

「後輩へ」

◆学生時代にやっておいたらよかったと思えること

長期海外留学をしておけばよかったと思います。若いうちに、いろいろな海外の方々の考え方、文化を学ぶことで、今よりもさらに成長できたような気がします。

◆その他なんでも、後輩に伝えたいこと

他人は持っていない自分の“武器”を身につけ、そして、多くの失敗をしながら挑戦し続けてほしいと思います。

連絡先 E-mail: yuurihirooka@hosei.ac.jp